意識高まる　火災への備え

煙や熱で火災発生を感知し、警報音や音声で知らせる住宅用火災警報器―。法律に基づいて、2011年6月に全ての住宅への設置が完全義務化された。「安全・安心」意識の高まりとともに警報器そのものの認知度は飛躍的に高まる一方で、普及状況はいまだ地域によってバラつきがあるのが実情だ。加えて、警報音が聞き取りにくい聴覚障害者や高齢者対策も新たな課題として浮上している。「自分の家は火災にならない」。私たちはそう思いがちだが、それは根拠のない自信にすぎない。「命を守る術(すべ)」の一つとして、火災警報器の重要性を、いまいちど認識する必要がありそうだ。

住宅用火災警報器義務づけ

全国の普及率7割超に

住宅火災によって死に至る原因の約70%が「逃げ遅れ」にある。このため国は、04年に消防法を改正し、住宅用火災警報器を設置することを義務づけた。06年の新築住宅に続き、市町村条例で定めることとされた既存住宅についても、11年6月までに完全義務化された。

施策の効果は既に明らかだ。総務省消防庁によると設置義務化がスタートした06年以降、住宅火災の発生件数及び死者数は減少傾向にある。また、消防庁が07年から09年の3年間の失火を原因とする約4万件の住宅火災について、火災警報器の設置による被害減少効果を分析したところ、死者数、燃損床面積、損害額、いずれにおいても警報器が設置されている場合は設置なしに比べ被害が半減することが明らかになっている。

また、東京消防庁に報告されている、「ついてよかった」という住宅用火災警報器の奏功事例は、06年は56件に過ぎなかったが、11年には422件と8倍近くに跳ね上がっている。他にも全国では、警報器が設置されていた家庭では、火災まで至らなかったり、ボヤで済んだケースが相次ぎ報告されている。米国でも、設置義務づけによる火災警報器の普及に伴い、住宅火災による死者数は70年代から半減するといった政策効果が示されている。

11年6月時点の全国の推計普及率は71%。10年12月時点の調査(63%)に比べ上昇しているものの、都道府県別の普及率には依然として大きな開きがみられる。東京都や宮城県の普及率が80%を超える一方で、沖縄県や山梨県、愛媛県、茨城県など7県ではいまだ50%台にとどまっており、積極的な対策が求められている。

そしていま、新たな課題として浮上しているのは警報音が聞き取りにくい聴覚障害者や高齢者対策だ。光や振動で火災発生を知らせる警報器も相次ぎ開発されており、こうした製品動向や技術革新に歩調を合わせるかのように国も新たな助成事業を打ち出している。その一つが、消防庁が実施している「聴覚障害者対応型住宅用火災警報器普及支援事業」。聴覚障害を持つ人の自宅などに機器を設置する際の費用を全額補助するものだ。問い合わせは、聴覚障がい者対応型住宅用火災警報器普及支援事業ホームページ(www.jyukeiki-shien.jp)へ。

さまざまな製品投入

利用者目線で「安全・安心」

さまざまな火災警報器が市場投入されるなか、その機能や技術から常に注目を集めているのが総合防災メーカー、ホーチキである。

代表製品である「ハイガードシリーズ」は、壁に吊るだけという取り付け時の簡便さや、ボタン一つで起動できるシンプルさが利用者の支持を集めている。一方、「新無線連動方式」は、一つの部屋の警報器が火災発生を感知すると、全ての警報器が作動する仕組み。例えば2階の寝室で発生した火災に階下で対応できるといったネットワーク機能が特徴だ。最大15台までグループ登録することができるため、二世帯住宅を一体監視したり、別棟と接続することも可能だ。しかも全ての警報器に再送信機能をもつため、「どの警報器をどの部屋に取り付けるか迷うこともない」(ホーチキ営業本部住宅設備部)という利用者目線にたった製品である。グループ登録も簡単で、音声ガイダンスに従ってボタンを押すだけで完了する。

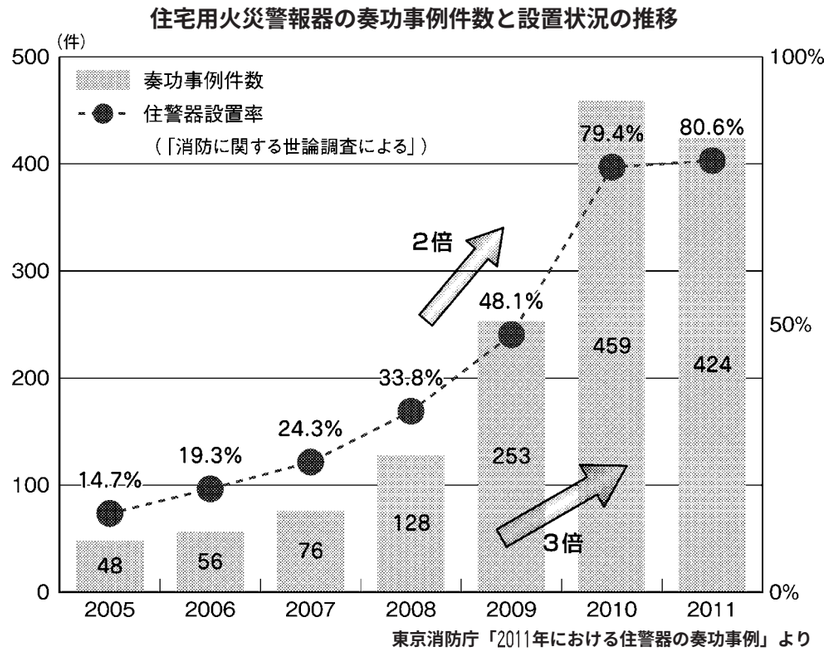
11年末に無線連動方式のシリーズ製品として投入したのは、グループ化された他の警報器から火災信号を受信すると、発光ダイオード(LED)による強い光(フラッシュ)と大きな音で火災発生を知らせる無線LED フラッシャ。官民挙げて対策に取り組む、前述の聴覚障害者や音が聞き取りにくい高齢者向けの製品である。装置にはライトも付いているため、夜間の避難時に懐中電灯としても利用できる。

さらに、電波の届きにくい場所の警報器に、火災を発見した警報器からの信号を中継する無線アダプターも市場投入した。母屋と離れを連動させる場合や、警報器間に遮蔽(しゃへい)物がある場合に有効という。しかも、火災信号出力端子が付いているため、ブザーやインターホンといった外部機器との接続も可能だ。

17年に創業100周年を迎えるホーチキ。日本初の防災メーカーとして、火災報知設備、消火設備、情報通信設備、防犯設備を柱に事業展開してきた、その歴史は「安全・安心」を実現する技術革新の軌跡そのものである。近年では、ヨーロッパ高速鉄道ユーロスターの始発駅である英国・ロンドンの「セント・パンクラス駅」に火災感知器を納入したことが大きな話題となった。東日本大震災の発生に際しては、7万個の住宅用火災警報器を仮設住宅向けに寄付している。

「住宅用火災警報器は家電なのか。答えはノーだ」―。ホーチキの製品カタログにこんな一文がある。ホームセンターや家電量販店で火災警報器を目にする機会が増えた。だが、いかにデザインが優れていても、いかに低価格であっても、もしもの時に、真にその機能を発揮する製品でなければ役目を果たすことができない。「住宅用火災警報器は家電ではない」。こう訴える姿からは、総合防災メーカーとしての矜持(きょうじ)が垣間みえる。

住宅用火災警報器の奏功事例件数と設置状況の推移



東京消防庁「2011年における住警器の奏功事例」より

住宅用火災警報器の都道府県別推計普及率

都道府県名	推計普及率
北海道	72.5%
青森県	71.2%
岩手県	61.0%
宮城県	87.2%
秋田県	62.3%
山形県	64.8%
福島県	60.5%
茨城県	54.9%
栃木県	64.6%
群馬県	63.4%
埼玉県	65.7%
千葉県	67.7%
東京都	88.2%
神奈川県	70.6%
新潟県	60.1%
富山県	74.4%
石川県	82.2%
福井県	77.6%
山梨県	53.8%
長野県	69.6%
岐阜県	61.1%
静岡県	65.6%
愛知県	77.8%
三重県	68.7%
滋賀県	68.7%
京都府	81.9%
大阪府	70.7%
兵庫県	72.1%
奈良県	60.7%
和歌山県	69.0%
鳥取県	58.3%
島根県	65.5%
岡山県	59.1%
広島県	68.0%
山口県	66.4%
徳島県	60.0%
香川県	62.7%
愛媛県	54.2%
高知県	58.6%
福岡県	78.2%
佐賀県	63.5%
長崎県	78.1%
熊本県	65.4%
大分県	69.2%
宮崎県	57.3%
鹿児島県	70.8%
沖縄県	51.3%
全国	71.1%

2011年6月現在、総務省消防庁まとめ

強い光と大きな音で火災発生を知らせる「無線LED フラッシャ」(ホーチキ)

東京・港区の「先端技術館@TEPIA」ホーチキ製品が展示され来場者の関心を集めている

住宅産業

お住まいのリフォームと一緒に、「安全」と「安心」もリフォームしませんか？

ホーチキの安全・安心よくばり計画

ホーチキなら、壁掛けタイプだから、取り付け「かんたん」！
●天井にも取り付け可能です。

ホーチキの無線連動式住宅用火災警報器で、ワンランク上の安全・安心を。

新無線連動方式

取り付けた警報器どうしがお互いに情報交換し、より確実な通信相手を見つけることで、常に最適な通信ルートを選択します。

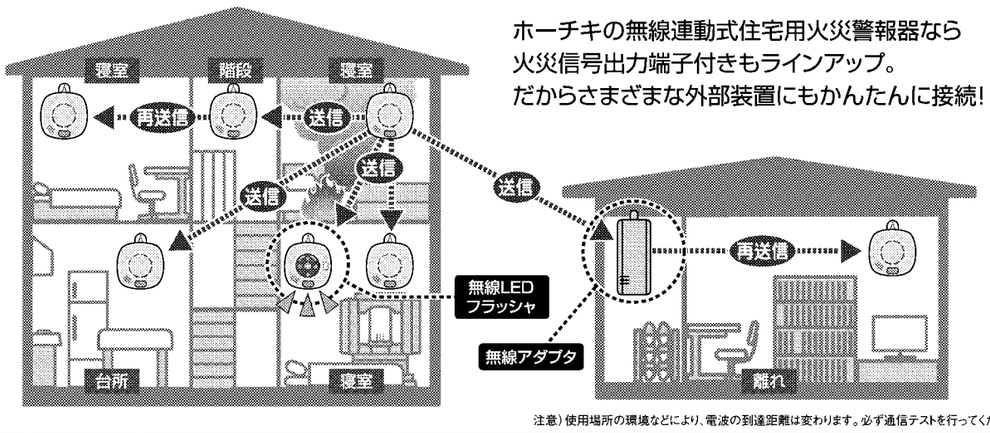
新発売
大きな音と強い光(フラッシュ)でお知らせ!
無線LEDフラッシャ SSFAHCC型
お年寄りや目・耳の不自由な方の部屋や、火災警報器の付いていない部屋などには、大きな音と光でお知らせする無線LEDフラッシャを取り付ければさらに安心。

新発売
電波の届きにくい所でも確実に無線中継!
無線アダプタ SSIAHCC型
電波の届きにくい場所の警報器に、火災を発見した警報器からの火災信号を中継します。母屋の離れを連動させる場合や、警報器間に遮へい物がある時に効果的!

●「無線LEDフラッシャ」と「無線アダプタ」は、当社の無線式住宅用火災警報器と同じグループとして連動が可能です。

取り付けた部屋の全ての警報器が作動。■ 火災信号出力端子付き ■

ホーチキの無線連動式住宅用火災警報器なら
火災信号出力端子付きもラインアップ。
だからさまざまな外部装置にもかんたんに接続!



注意)使用場所の環境などにより、電波の到達距離は変わります。必ず通信テストを行ってください。

火災報知・消火・トンネル防災・情報通信・出入管理など各種システムの製造、販売、施工、保守
ホーチキ株式会社
本社 〒141-8660 東京都品川区上大崎2-10-43 TEL03(3444)4111 FAX03(3444)4118
http://www.hochiki.co.jp

住宅用火災警報器ご相談センター
ナビダイヤル(有料) 0570-077-155
受付時間 9:00～18:00(年末年始を除く)

好評! 今日からモノ知りシリーズ
●A5判 ●定価 各1,470円(税込)

トコトンやさしい
太陽電池の本
産業技術総合研究所
太陽光発電研究センター 編著
家の屋根での発電からビルの窓への利用、砂漠や宇宙での発電まで、最近急速に広がっている太陽電池。日本は今や世界一の太陽電池生産国である。そんな太陽電池の発電の仕組みや種類、産業から生活までの使用例などを紹介。この1冊で太陽電池が丸わかり。

トコトンやさしい
錆の本
松島 巌著
主として鉄の表面に出来る赤褐色の錆について、なぜできるのか?どうやって防ぐのか?大気中、水中、土中ではどうなのか?
錆の正体は何か?など、一般的な錆について、わかりやすく説く。

トコトンやさしい
燃料電池の本
燃料電池研究会編
地球温暖化を防ぐために一躍脚光を浴びているのが燃料電池。家庭用に自動車用に将来は大きな産業になると考えられている。その燃料電池とはどういうものか、開発研究はどこまで進んでいるのか、やさしく解説する。

トコトンやさしい
振動・騒音の本
山田伸志著
振動と騒音の発生メカニズムから、その対策の実際までを、数式を使わず図解でやさしく解説する。騒音・振動に直接かかわる人たちだけでなく、建設・土木、機械、電気・電子関係の実務者・設計者にとっても参考になる一冊。

トコトンやさしい
ガラスの本
作花済夫著
びんや窓、電球などの我々の日常生活に幅広く使われ、必要不可欠なガラス。各種の特性をもち、いろいろな形に作れるため、エレクトロニクスや光通信など新たな分野で使われることも多くなってきた不思議なガラスの世界をわかりやすく解説する。

トコトンやさしい
ユニバーサルデザインの本
宮入賢一郎・横尾良笑著
日本ユニバーサルデザイン研究機構監修
さまざまな人々にとって使いやすく設計された「ユニバーサルデザイン」。本書ではこの「ユニバーサルデザイン」について、その起源から基本思想、基本理解、導入プロセスに至るまでを解説、さらに各分野で活躍している「ユニバーサルデザイン」製品のポイントも紹介している。

トコトンやさしい
音の本
戸井武司著
人間は「音」を介して多くの外部情報を得ている。また音には、不快な音や快い音があり、現在、快い音を作る研究が盛んに行われている。本書では、「音とは何か?」の解説をはじめとして、自動車、家電、OA機器、カメラなどでの具体的な取組みまでを紹介。

トコトンやさしい
塗料の本
中道敏彦・坪田 実著
塗装という工程が複雑に絡み、一般的にブラックボックスになっている「塗料」をわかりやすく、かつきちんと解説。環境規制による環境対応型塗料、また機能性塗料における可能性など、技術者のみならず、ユーザー側にも塗料・塗装に関する正しい理解が求められている近年、必携の一冊。

FAX申込書 03(5644)7400

◎ご注文は書店または添付FAX申込書で弊社出版局販売・管理部までお申し込み下さい。

お問合せ先
日刊工業新聞社
出版局販売・管理部
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1
TEL03(5644)7410
http://pub.nikkan.co.jp/

〒
ご住所
TEL　FAX
会社名　部署名
注文者名

書名	冊数	金額
トコトンやさしい 太陽電池の本		
トコトンやさしい 燃料電池の本		
トコトンやさしい ガラスの本		
トコトンやさしい 音の本		
トコトンやさしい 錆の本		
トコトンやさしい 振動・騒音の本		
トコトンやさしい ユニバーサルデザインの本		
トコトンやさしい 塗料の本		
合計		

お申し込みの際、拡大コピーされたものをFAXされますようお願い致します。※弊社にお申し込みの方は送料を無料とさせていただきます。